

いいですか
美津日

草薙の巫女として
妖を退治し
人を助けるのが
あなたの使命です



はい

必ずや使命を
全うします



催眠遊蕩

生真面目巫女は
狡猾妖狐に墮とされる



この山で
妖が
暴れていると

はい

先月から
山道を通る者が
襲われて
困っております

巫女さま
お一人で
大丈夫ですか？

分かりました
退治して
まいります

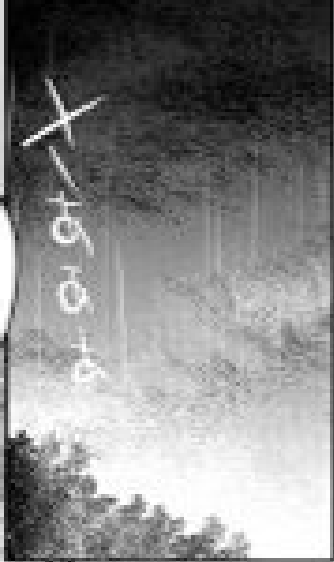
安心して
ください

私は草薙の巫女
ですから

クサナギ
つちゆうと
都の社に
仕えてる

あの？

こんな都から
離れた場所
に
すごいお人が
来てくれたね



雨か



雨か

視界が悪い

村の人の話だと
山道のすぐそばに
夕方から出るって
言ってたけど...



人の悲鳴!

はっ



か細いけど
たしかに
聞こえた

この先...

いた!

助けなきや!

伏せて!







ありがとうございます
ございます

巫女さま



あ
ハイ



助けていただいた
お礼がしたいので

ぜひ我が家へ
おいでください



お香の
におい



びっくりした
綺麗な女の人かと
思ったら
男の人だ



まだ名乗って
いませんでしたわ

宵雨しゅううと
申します

先ほどは
助けていただき
ありがとうございます
ございました



私は美津日
といいます

民を守るのは
草薙の巫女として
当然のことです

！

美津日様は
草薙の方
なのですね

ご存知
ですか？

はい

もちろんです

妖を退ける力を
はるか昔、ある巫女が
神から授かった

巫女の血を継ぐ
一族たちは代々
妖を退治し
人々を守る使命を
生まれた時から
負っている

その中でも草薙は
都の社にて
妖が都に入れぬよう

守護の結界を
任されている
特別な一族
と聞いております

そんな立派な
御方とは知らず

こんなあばら家
にお呼びしてしまい
申し訳ありません

あせ
あせ

いえ、
そんな……

顔を
上げてくださ



私は…
一族の中でも
力が弱い
未熟者です

守護の勤めが
できないから
外の妖を退治して

辛うじて
巫女の使命を
果たしているに
すぎません



本当にすごいのは
妹や両親など
都の守護を
任される方々で…

私なんか…

でも私を助けて
くださったのは
美津日様ですよ



あなたは
素晴らしい
方です

そんなにご自身を
卑下なさらないで
下さい



宵雨さんの言葉は
すつと胸に届く

不思議な方だ





苦労され
たんだな

さみしくは
ありませんか？



以前人里に
住んでいたら
襲われたことが
ありました

!?

こんな見目
ですしね



もう
慣れました

とはいえ

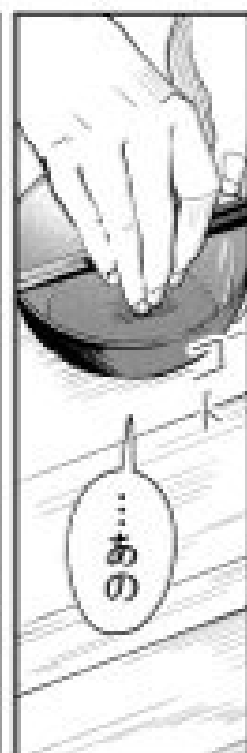
こうして
誰かと一緒に
過ごした後は

一人の食事が
味気なくなつて
しまいますが



まだ別の妖が
潜んでいないか
調べるために

数日
ここにいても
いいですか？



…あの



なんて

困らせることを
言つてしまい
ましたね

お気になさらず



よろしいの
ですか？

私に
できることが
あれば

これが私の
勤めですから

それに

何でも言っ
てください



何でも？



お優しい
美津日様

「はい」



ん

あれ？

私、何して
たんだっけ？

あ、

アハハハ

アハハ

は

あ

妖を退治して

それから！

ん

あ

宵雨さんの

家に――

はあ

あ

んっ

んっ

しよしよづら

さん？

おや

術が解けて
きましたか

さすが
草薙の血ですね

ですが



私は人を殺したり
血肉を食むのは
好きじゃないんです

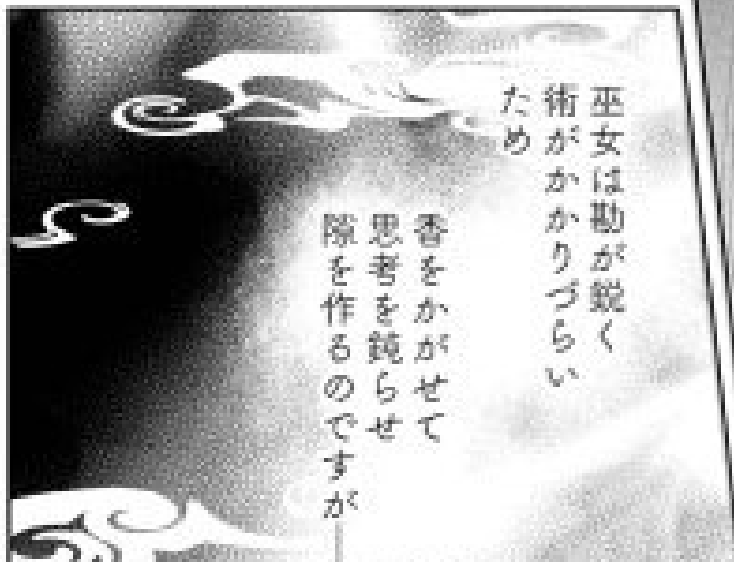
おしやべりしたり
こんな風に
可愛がれないと
つまらないですから



御覽の通り

あなたは

妖狐ですよ



巫女は勲が鋭く
術がかかりづらい
ため

香をかがせて
思考を鈍らせ
隙を作るのですが



あなたは
なしかに巫女として
未熟のようですね



昔会った
草薙の巫女は
私が仕向けた
大ムカデを
一撃で仕留め

術にもかからず
実に厄介でした



さっきから
巨虫のりして

うまく
かんがえられ
ない

私は



あの巫女と比べて
美津日様は

至極あっさり
かかって
くれましたよ



私は昔から
草薙の一族が
どういう者たちか
存じております

能力が劣る
未熟者の雑事

彼らは
都の社への
勤めが
何よりの誓れ

地方を巡って
小物の妖を
追い払うなんて…

あなたは
一族から
見放されたん
ですね

かみいそ
可哀想な
美津日様

いいですか
美津日

草薙の巫女として
倦まず弛まず
使命に励みなさい

そうすれば
いずれ都に戻って
これるでしょう



でも
父さま
母さま

はい
精一杯
務めます

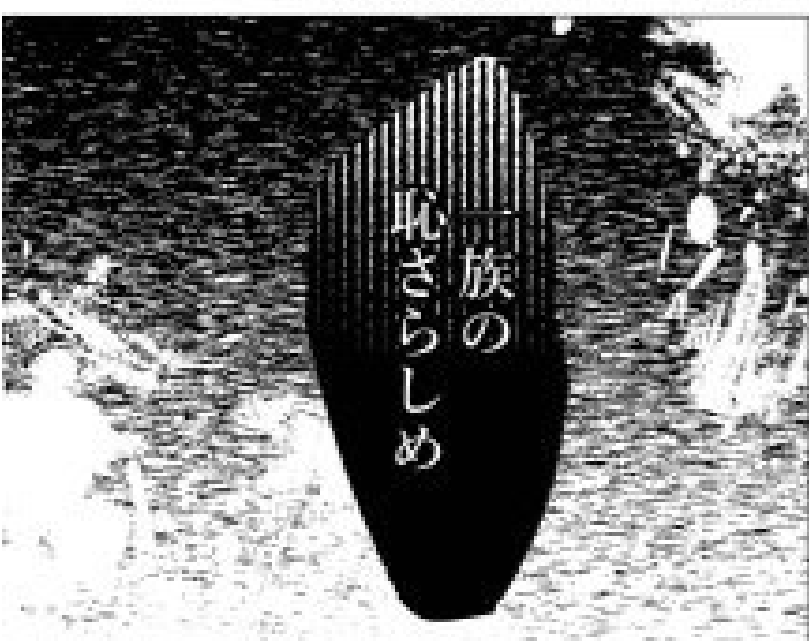
私、聞いてしまったんです



美津日は
地方の分家へ

妹は
百年に一人の逸材
だというのに
姉の方はどうして
ああも出来が
悪いのか

都の社には
美津帆だけ
連れて行こう



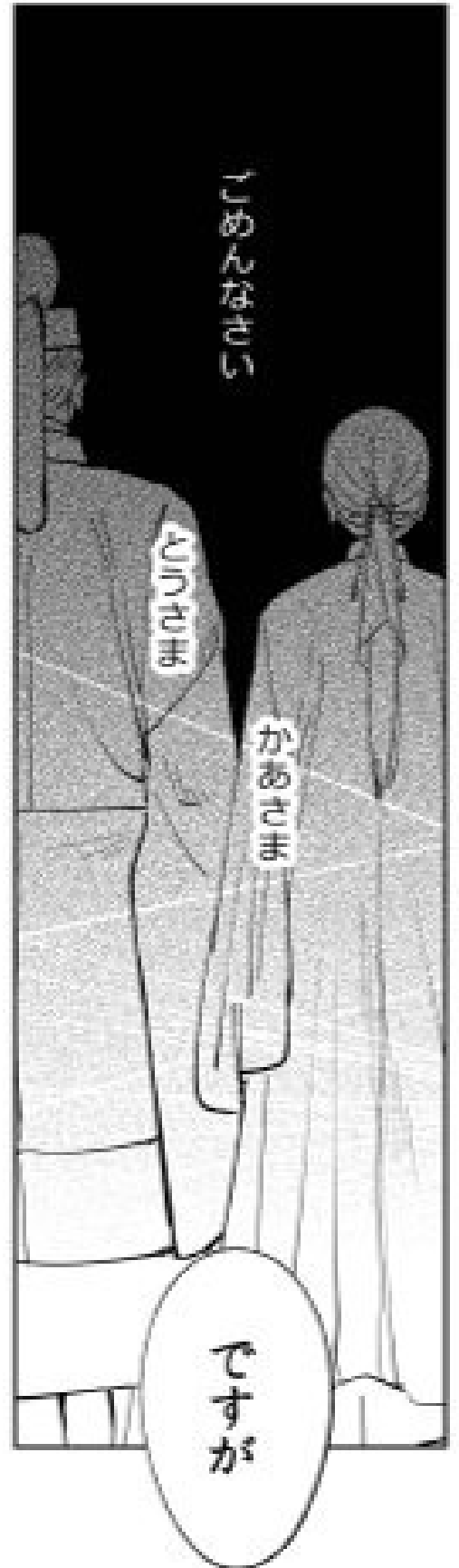
族の
恥さらしめ



いくら
修練を積もうと
あれ以上の力は
望めまい



私はそんな
美津日様こそ
好きですよ



「めんなさい

アノチキ

かあさま

ですが



数刻の間
ほぐしていた
甲斐あって

すんなり
入りましたね

あー
うー
うー

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん



草薙の靈氣を
味わうのは
久しぶりです

じっくり
楽しませて
ください



気持ちいい
でしょう？

美津日様

忘れられぬよう
身体にしつかりと
刻み付けて
あげますからね



他の妖に
喰われなくて
幸いでした

巫女の靈氣は
妖にとって
最高のご馳走
ですから



何のために
がんばってるんか







何か
忘れていませんか……



あれ？



美津日様

よく聞いて
下さい



今後も私が
様子を見に
来ますので



私の言う通りに
できたら



他の妖が
潜んでいないか
探っていましたか

しばらくは
山の奥まで
入らないよう
お願いします



次もたっぷり
可愛がって
あげましょう

楽しみに
お待ちしておりますよ

美津日様



安心して下さい



ああ、あの…

草薙の一族の
巫女だった
という話だ



そういうえば
最近また外巫女が
行方知れずに
なったらしいな

まじのー

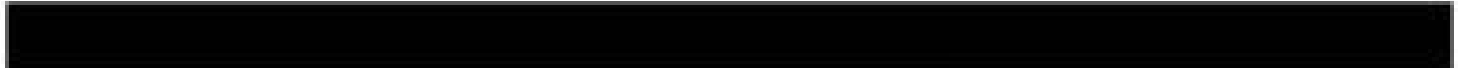


外巫女は道中
妖に襲われて
行方が分からなく
なることが多い

けれど
都に害が及ぶ
危険がない限り
放っておかれる
始末

それを見越して
草薙の家から
地方回りを
命じられたんだらう

かわいいそうに



まだ足りない？

はいですわ

あ

は

ん

っ

は

まじ

まじ

まじ



催眠遊蕩

さいみんゆうとう

生真面目巫女は
狡猾妖狐に墮とされる

発行日 2025年6月1日

発行者 雨浅ひゆ(アメフってジカタまる)

mail usasahiyu@gmail.com

※本作品は成人向けです

18歳未満の方は購入・閲覧できません。

作品の本文(全てまたは一部)を無断で複製転写、

改変、公衆送信(SNS含む)することは禁止しています。

本作品はフィクションです。実在の人物や団体、事件
とは関係ありません。

また、実際の性行為とは異なります。





代々続く
草薙の巫女



その霊気は
他の人間の
比ではない



最初は面倒だと
思いましたが

こんな僥倖に
恵まれるなら
突然の来客も
悪くありません





足を開いて
座って下さい



ああ

手も足も
傷だらけですね

一人の旅は
さぞ辛かった
でしょう

途中で
辞めてしまえば
こんな目に
遭うことも
無かったでしょうに



あーあーあー

は



アハハ

このまま
入れてしまうのも
つまらないですし

とろ

そうですね

草薙の血ですから
そのうち術が
解けるはず……

その間ここを
じっくりほぐして
あげましょう

美津日様の場合
解けるまでにだいぶ
かかるでしょうが

安心して下さい

焦らずとも
時間はたっぷり
ありますから



催眠さいみん 遊蕩ゆうどう

生真面目巫女は
狡猾妖狐に
墮とされる